

1955 (昭 30)・2月25日、ピオ12世によって鹿児島知牧区は司教区へ昇格、初代司教に里脇浅次郎神父(長崎教区司祭)を任命。5月3日、長崎市の中町教会で司教祝聖式、七田和三郎神父を団長に信者が鹿児島から参列。5月8日、1947(昭28)年12月25日に日本に復帰した奄美諸島は正式に鹿児島教区に移管された。

- ・教区教勢：信徒数3,933
- ・司教区昇格直前からレデンプトール修道会は、1954年3月2日、鹿児島知牧区と結んだ30年契約によって、川内教会を本拠に南薩、北薩地区の宣教司牧を再開、聖堂を単独であるいは幼稚園併用で祝別して拠点を作る：加世田と枕崎(1956)、出水と大口(1958)、入来(1972)  
他方、コンベンツアル聖フランシスコ修道会アメリカ・アントニオ管区はカプチン会を引き継ぎ、1952年11月から奄美諸島の宣教司牧を担当。同修道会は10教会を新築、14教会を再築し、1つの布教所を開設。
- ・5月、里脇司教初めての奄美大島公式訪問
- ・9月、ショファイユの幼きイエズス修道会、奄美大島西仲勝に修道院開設
- ・12月、名瀬市の大火で、教会、司祭館、伝道館など6棟が全焼

1956 (昭 31)・4月、ラ・サール中学校開校

1957 (昭 32)・3月レデンプトール修道会、谷山市、指宿市地区での宣教開始

1958 (昭 33)・2月14日、前鹿児島知牧区長出口市太郎神父、長崎市で帰天

- ・3月、永島泰蔵師司祭叙階 於・ザビエル教会
- ・レデンプトール修道会、徳之島布教を開始。岡前教会1958年、母間教会1959年の献堂から始まり、1966年まで、全部で11聖堂を建立した。
- ・4月、宮崎カリタス修道会、奄美大島大笠利に修道院開設
- ・7月17日、鹿児島司教区はザベリオ宣教会と25年契約を結び、始良郡、大隅半島、種子島、屋久島地区の宣教司牧を委託。既にあった垂水教会に司祭を派遣、鹿屋教会献堂(1962)から始

- まり、星塚敬愛園（1963）種子島・屋久島（1965）志布志と大根占（1966）国分（1969）と拠点を作る。
- ・11月、奄美カトリック青年会発足
- 1959（昭34）
- ・1月、名瀬聖心教会を正式に小教区として設立認可
  - ・2月、聖母カテキスタ会の会員の1人が大口教会で任務に就く。
  - ・3月、小平卓保師司祭叙階 於・ザビエル教会
  - ・11月、コンベンツアル聖フランシスコ修道会、名瀬市に「白百合の寮」（児童養護）を建設、宮崎カリタス修道会に委託、開設
- 1960（昭35）
- ・三木巖師、イエズス会より当教区に入籍
  - ・4月、鹿児島純心女子短期大学開学
  - ・4月、川内純心女子高等学校開校
  - ・4月、聖心の布教姉妹会、徳之島に修道院開設
  - ・11月、駐日パチカン公使ドミニコ・エンリチ大司教公式訪問
- 1961（昭36）
- ・4月、カノッサ修道会、大口市に修道院開設  
大口明光学園（中・高）開校
  - ・12月、大野和夫師司祭叙階 於・ローマ
- 1962（昭37）
- ・6月「カトリック鹿児島教区報」創刊
  - ・10月、第二パチカン公会議開始（～65）
  - ・10月3日、里脇司教第二パチカン公会議参列のためローマへ出発
- 1963（昭38）
- ・4月、レデンブートル修道会が阿久根市に「聖園老人ホーム」を開設、聖心の布教姉妹会に寄贈
  - ・12月、川内教会は敷地交換により向田町から若松町に移設
- 1964（昭39）
- ・5月、谷山教会献堂・小教区創立。併設の本部修道院、小神学校落成
  - ・8月、名瀬聖心小教区から分離独立して古田町小教区創設
- 1965（昭40）
- ・5月、レデンブートル女子宣教会（現・レデンブートル宣教修道女会）鹿児島市に修道院開設
  - ・司教区創立から10年：信徒総数8,558 受洗者数556

1966 (昭 41)・5月29日、鹿児島教区司祭大会をラ・サール学園で開催。特別聖年にあたり、また第二バチカン会議閉幕を受け、「わたしもあなたもキリストのあかしびと」をテーマに1,500人が参集。「信仰と家庭生活」「信徒使徒職の活動をどうするか」「職場と信仰生活」「教職員と布教活動」「学生と布教活動」の5分科会を設けて分かち合う。

- ・5月、鹿児島カトリック教師の会発足
- ・7月、コンベンツアル聖フランシスコ修道会が知的障害児施設「希望の星学園」を建設、クリスト・ロア宣教修道女会に委託、開園。同時にクリスト・ロア宣教修道女会、赤尾木に修道院を開設
- ・11月、奄美大島宣教75年祭

1967 (昭 42)・2月7日、鹿児島教区は1952年から既に奄美大島に入り、教会の復興に尽力していたコンベンツアル聖フランシスコ修道会と30年契約を結び、同地区(徳之島地区を除く)の宣教司牧を委託

- ・3月、成相明人師司祭叙階 於・ザビエル教会
- ・3月、美島春雄師司祭叙階 於・名瀬聖心教会
- ・7月、竹山昭師司祭叙階 於・ザビエル教会
- ・4月、鹿児島市内に聖パウロ書院開設(後に山形屋にも進出、1974年ザビエル会館に移設)
- ・10月、駐日バチカン大使プルノ・ウステンベルグ大司教、教区本土を公式訪問
- ・10月、聖血礼拝会、霧島丸尾に修道院開設
- ・12月、新名瀬聖心教会献堂

1968 (昭 43)・1月、教区高校生大会、鹿児島純心女子学園で開催

- ・3月、永山幸弘師司祭叙階 於・ザビエル教会
- ・4月、レデンプトール女子宣教会、鹿児島唐湊に聖母寮(女子学生寮)を開設
- ・5月、カトリック医師会とカトリック看護協会鹿児島支部設立

- ・6月、駐日バチカン大使ブルノ・ウステンベルグ大司教、奄美大島を公式訪問
- ・6月、鹿児島市内の三小教区の区画について検討、確認と若干の変更を行う。
- ・12月19日、里脇司教、長崎大司教に任命される。教区管理者に田原章神父

1969(昭44)・3月、里脇司教長崎大司教着座(長崎)

- ・6月、鹿児島市内教会(当時はザビエル、鴨池、谷山の三教会)連合青年会発足
- ・8月、教区高校カトリック学連、徳之島で大島ブロック大会開催
- ・11月15日、教皇パウロ6世、パウロ系永真一神父(長崎教区司祭)を鹿児島教区司教に任命
- ・12月、鹿児島教区司牧評議会発足

1970(昭45)・1月18日、系永被選司教の司教祝聖式が純心学園で行われ、1,500人が出席

- ・3月、下村徹師、長崎大司教区から当教区に入籍
- ・4月、第一回教区司牧評議会開催 テーマ「鹿児島教区の布教の再検討」。四つの課題「布教における司祭・修道者・カテキスタ・信徒の役割」「小教区・学校・幼稚園、その他の施設の布教活動」「各種信徒使徒職団体の布教的使命」「その他布教のために望ましい施設や運動」について話し合う。
- ・6月、マリアの宣教者フランシスコ修道会、種子島に修道院開設
- ・10月、教区主催第一回男子クルシリヨを愛の聖母園で開催。教区はこれを信徒養成の重要な柱と位置づけ、後に自前チームを作り活動

1971(昭46)・2月、指宿教会が谷山小教区から教区に移管、小教区創立

- ・3月、第一回司祭評議会総会
- ・3月、松森孝郎師司祭叙階 於・ザビエル教会

- ・6月、国分教会から分離して加治木小教区創立
  - ・7月、教区司祭地区で、「教区司祭地区財務管理規定」を実施
  - ・8月、鴨池小教区から分離して紫原小教区を創立
- 1972 (昭47)
- ・3月、郡山健次郎師司祭叙階 於・名瀬聖心教会
  - ・4月、枕崎教会が加世田教会から分離され教区へ移管
  - ・4月、ザビエル小教区から分離して吉野小教区を創立
  - ・4月、入来町のパウロ牧田汎耕医師寄贈の土地にショファイユの幼きイエズス修道会が知的障害者施設「薩来園」を開園
  - ・4月、コンベンツアル聖フランシスコ修道会、古仁屋に特別養護老人ホーム「奄美の園」を建設し、社会福祉法人聖母会(経営母体・マリアの宣教者聖フランシスコ修道会)に委託、開園
  - ・5月、第一回女子クルシリヨ開催 於・愛の聖母園
  - ・6月、第一回鹿児島市宣教会議
  - ・7月、社会問題研究会発足
  - ・10月、「カトリック研修センター」(司教館隣接)開館式
  - ・11月、牧山田一師福岡教区より当教区に入籍
  - ・11月、第一回キリスト共同体錬成会 於・鹿児島純心女子学園  
教区の宣教、共同体作りのため導入され、その後自前でチームを作り活動
  - ・12月、小川靖忠師司祭叙階 於・ザビエル教会
- 1973 (昭48)
- ・1月、最初の教区目標として「聖書に親しむ運動」を掲げる。
  - ・3月、キリスト共同体錬成会が鹿児島市内、南北薩の教会で開催
  - ・5月、教区第四回クルシリヨ(奄美大島で初)開催 於・大笠利教会
  - ・5月、聖書に親しむ運動の一環として聖書学者Z・イエール神父による聖書学習会開催
  - ・6月10日、教皇は和解をテーマとしてローマで聖年を宣言。実際の開始と実践の形式は教区、小教区に委ねる。なお鹿児島教区は聖年の教区内巡礼聖堂としてザビエル教会と名瀬聖心教

- 会、そして後で徳之島岡前教会を指定
- ・7月、ザビエル小教区から分離して玉里小教区を創立
- ・10月、信者の一致と連帯を目指し「鹿児島市内信者の集い」が  
ラ・サール学園で開催
- 1974（昭49）・1月、司教は教区報の年頭のあいさつで、聖年実施の第一年の  
目標「みことばを生活に生かそう」発表
- ・4月、ザビエル会館落成。その機能はザビエル幼稚園、教区及  
びザビエル小教区のための宣教司牧センター、一階に聖パウロ  
女子修道会経営の「ザビエル書院」が入る。
- ・4月24日、新設された会館で第一回教区主催「神学講座」を開  
講、その後事務局を設置し、川内、大口教会にも出向して養成  
活動を行う。
- ・8月25日、ザビエル上陸425年祭
- ・11月、司祭、医師、大学教授、夫婦を講師に新形式の結婚講座  
開催
- 1975（昭50）・1月、聖年にあたって教区目標「和解と刷新をめざし、信者の  
交わりを深めよう」を掲げ、その実践目標を 信者名簿の作成  
と配布 生活次元の信者の交わりの促進 教区大会の実  
施 聖年巡礼 とする。
- ・1月、鹿児島地区で底辺からの共同体作りを目指す具体的な方  
策として「班制度」を導入
- ・3月、名瀬カトリックセンター落成
- ・3月、聖年大隅地区信徒大会 於・鹿屋教会
- ・3月・5月、キリスト共同体練成会を鹿児島市、南北薩の教会  
で開催
- ・4月、鹿児島、奄美大島レジオはアイルランド・ダブリンのレ  
ジオ国際総本部から使節を迎える。
- ・5月、徳之島母間教会で初めてのキリスト共同体練成会を開催
- ・5月、鹿児島で教区大会 於・鹿児島純心女子学園
- ・6月、徳之島で信徒大会 於・岡前教会

- ・6月、教区巡礼団、ローマ・聖地へ
- ・7月、鹿児島カトリック婦人連合発足
- ・8月、第一回教区主催ザビエル祭。同日、パチエコ神父著「鹿児島のキリシタン」の出版記念会
  - ・9月、糸永司教は教区創立50周年（1977年3月18日）を迎えるにあたり二つの準備委員会、つまり「ザビエル上陸記念碑建立促進世話人会」（仮称）及び「鹿児島教区50年史編纂委員会」を設置
- ・10月、鹿児島カトリック連合青年会再出発
- ・10月、司教特別諮問機関「青年宣教対策特別審議会」を設置
- ・11月、奄美大島で教区大会 於・浦上教会
- ・司教区創立から20年：信徒総数8,656 実数8,069 受洗者数313

- 1976（昭50）
- ・1月、教区目標「全信徒の宣教参加と信徒使徒職団体の育成強化」を掲げる。時を同じくして、日本司教団宣教司牧司教委員会は「日本における宣教について」を発表し、全信徒の宣教参加を呼びかける。
  - ・2月、駐日バチカン大使イポリト・ロトリ大司教鹿児島教区訪問
  - ・2月、名瀬聖心教会でキリスト共同体練成会を開催
  - ・5月、教区は今年度のもう一つの教区目標として司祭団レベルで「教区財政正常化計画」の検討を決め、1月から地区長・顧問団、各地区司祭団で話し合い、次いでその集約をコンベンツス（定例教区全司祭会議）で検討
  - ・8月、キリスト共同体練成会を開催 於・愛の聖母園
  - ・9月、記念碑建設のため「ザビエルカレンダー」（3万部）を制作販売
  - ・9月24日、元鹿児島知牧区長山口愛次郎長崎大司教帰天
  - ・11月、第五回司牧評議会拡大総会開催。司教が諮問した「教区50周年記念計画案」に関し、ほぼ同試案通りの答申を行う。内

容は 信徒使徒職協議会の結成 教区子供大会 50 年  
記念式典 ザビエル上陸記念碑除幕式。同月「教区創立 50  
周年記念行事委員会」を設置、また「教区子供大会準備委員会」  
の初会合

- ・ 12 月、「信徒使徒職教区協議会」結成準備委員会発足
- 1977 (昭 52)・ 1 月、教区司祭団共同体練成会 (第一回教区司祭大会) 於・  
市来町吹上浜荘
- ・ 1 月、50 周年記念行事委員会が「中央式典要項」を決定
  - ・ 1 月、系永司教は会計部長と共に奄美大島地区信徒代表者会  
議に出席、「財政正常化計画」について検討。投票の結果、導  
入の方向で同地区の総意を得る。
- ・ 3 月 20 日、鹿児島教区創立 50 周年は県内全ての小教区で、そ  
れぞれの形で行い、午後 3 時からザビエル教会で 3 時間半に及  
ぶ中央式典。式典は、感謝状贈呈式(恩人、永年勤続・功労者)、  
東條・中野両師の助祭叙階式、里脇長崎大司教、石神那覇司教  
及び系永司教に 20 人余の司祭が共同司式する感謝ミサ、ホテ  
ルに会場を移し夕食会。参加者 450 人
- ・ 5 月、鹿児島教区財政正常化計画を実施、鹿児島教区財政自立  
の大きな第一歩を歩み始める。
- ・ 7 月、奄美大島子供大会 於・大笠利教会 227 人参加
- ・ 8 月、鹿児島子供大会 於・鹿児島純心女子学園 247 人参加
- ・ 系永司教司祭叙階 25 周年記念、ザビエル教会でミサ
- ・ 11 月、コンベンツアル聖フランシスコ修道会アメリカ・アント  
ニオ管区、奄美大島宣教 25 年を祝う 於・名瀬聖心教会。1952  
年 11 月、同会最初の宣教師ゼローム・ルカスゼフスキー神父、  
ルカ・ディジャク神父来島
- 1978 (昭 53)・ 種子島教会、教区へ移管
  - ・ 1 月、奄美で初の教区司祭大会 (第二回) 於・奄美空港ホテ  
ル
  - ・ 4 月、東條一浩師、中野裕明師司祭叙階 於・ザビエル教会

- ・4月23日、50周年記念事業「ザビエル上陸記念碑」除幕式。除幕式に先だって駐日バチカン大使主司式、長崎大司教、福岡、大分、鹿児島の大司教、それに県内外の司祭による共同司式ミサ、系永大司教による記念碑の祝別、建設委員会委員長松村仲之助氏による引き渡し式（寄贈式）。駐日スペイン大使、鎌田鹿児島県知事、山口鹿児島市長が祝辞を述べる。雨、灰、風の最悪の嵐の中での式典となったが、1,200人が参加。レリーフ製作者はレイ・フランセン神父、ブロンズ像の製作者は吉野毅氏、施工者は池田建設、建設費用1,200万円。後にこの日を「司教座教会献堂記念日」に決定
- ・6月、鹿児島カトリック壮年連絡協議会発足
- ・9月、鹿児島地区班長研修会
- ・9月、レデンプトール修道会来日25周年式典 於・谷山教会
- 1979（昭54）・1月、新規約による第一回司祭評議会総会
- ・4月、教区信徒使徒職協議会設立
- ・7月、国際児童年にあたり第二回教区「こども大会」開催。奄美地区は笠利町あやまる荘で行い、徳之島地区を含めて300人の小・中学生。8月、本土地区はラ・サール学園で行い、311人の小・中学生が参加
- ・8月、奄美大島カトリック連合婦人会発足
- ・9月、「十字架の使徒会」教区認可
- ・11月、第一回教区青年大会 於・鹿児島純心女子学園
- 1980（昭55）・1月4日、七田八十吉師帰天
- ・3月、屋久町が町政20周年に「シドッチ上陸記念碑」除幕式
- ・6月、鹿児島教区修道女連盟発足
- ・11月、奄美大島地区教師の会再発足 於・名瀬聖心教会
- 1981（昭56）・2月23～25日、教皇ヨハネ・パウロ二世訪日。25日、広島で平和アピール。26日、長崎市松山競技場でミサ。鹿児島教区全土から2,000人以上が参加
- ・8月、「大隅地区信徒使徒職協議会」設立

- ・9月、教区信徒協主催「自然な家族計画」学習会開始
  - ・12月、司祭評議会の精力的活動の具体的な実りとして、鹿児島教区司祭評議会編「カトリックの信仰」出版
- 1982(昭57)・3月、糸永司教、教区内全小教区に班制度・小教区司牧評議会の一律実施を指示
- ・4月、福音の光修道会、奄美大島大熊に修道院開設
  - ・8月、信徒養成の一環として教区主催「聖地・ローマ特別巡礼団」を立ち上げ、翌年と合わせて2回巡礼。約60人が参加
- 1983(昭58)・3月、ザベリオ宣教会と教区との契約を見直す。10年契約、地区委託から小教区委託に変更
- ・3月、寝占敦之師司祭叙階 於・鴨池教会
  - ・4月、垂水小教区をザベリオ宣教会から教区に移管
  - ・4月、「鹿児島カトリック看護協会」再発足
- 1984(昭59)・6月、日本司教団「日本の教会の基本方針と優先課題」発表。第一回福音宣教推進全国会議の1987年開催を決定
- ・6月、教区信徒大会 於・ザビエル上陸記念碑。全教区から1,400人参加 テーマは「現代に果たすべきカトリック信徒の使命に目覚めよう」
  - ・8月、司教は「信者倍増10カ年計画」を司祭評議会に諮問、賛同を得、計画書を司祭団に送付し協力を求める。
  - ・11月23日、鹿児島教区「信者倍増10カ年計画」(信者倍増運動 SBU)が第六回教区司牧評議会で採択され、「司牧評議会宣言」のもとにスタート
  - ・12月、翌年の国際青年年に当たり「青年年教区プロジェクトチーム」発足
  - ・12月、宣教奉仕者養成地区担当者会議。求道者コースのカリキュラム説明並びに宣教奉仕者の心得などについて討議
- 1985(昭60)・2月、SBU「要理カリキュラム」:カトリック入門講座発行(洗礼志願者講座6月、新受洗者講座11月発行)
- ・2月、鹿児島地区、北薩地区、徳之島地区宣教奉仕者養成コー

ス開始

- ・3月、奄美大島で最初の宣教奉仕者養成コース開催
- ・4月、司教は鹿児島地区宣教奉仕者75人を選任 於・ザビエル教会
- ・5月、司教、北薩地区宣教奉仕者42人を選任 於・川内教会。  
同じく5月、教区総代理は徳之島地区宣教奉仕者23人を選任
- ・7月、司教、奄美大島地区宣教奉仕者78人を選任 於・名瀬聖心教会
- ・カトリック研修センターを「司祭の家」に変更
- ・8月、系永司教「アド・リミナ」で教皇訪問
- ・8月、「青年の海外体験学習」 韓国へ15人、フィリピンへ18人参加
- ・11月、第一回教区主催川内殉教祭 250人参加
- ・11月、「教区青年大会」開催、「大会宣言」を行い、「鹿児島カトリック青年団」結成 於・鴨池教会 114人参加
- ・12月、鹿児島・大分両司教、宮崎に教区小神学校設置を決め、翌年4月に新入生を迎えることを決定
- ・司教区創立から30年：信徒総数 10,160 実数 9,471 受洗者数 355

1986(昭61)・2月、七田和三郎師金祝

- ・3月、駐日パチカン大使ウイリアム・マクイン・カルー大司教 教区訪問。同大使により木村敏彦師司祭叙階 於・ザビエル教会
- ・4月「福音宣教推進全国会議(ナイス 87)長崎管区鹿児島信徒公聴会」(長崎、福岡、大分、那覇、鹿児島5教区)開催、司教3人を含む信者が130人(中70人は鹿児島)参加
- ・SBU 第一回奄美大島地区合同堅信式(4月) 於・浦上教会 82人受堅。鹿児島地区(5月) 於・ザビエル教会 97人受堅。北薩地区(6月) 於・出水教会 44人受堅
- ・5月、「奄美大島連合壮年会」結成

- ・9月、レデンプトール修道会と教区の契約を見直す。10年契約、地区委託から小教区委託に変更、谷山、出水、母間小教区を永久委託とする。但し、永久委託小教区に関しては、教区と修道会の合意によって、司牧上の必要性に応じてこれを分割できる、とする。
  - ・11月、SBU主催教区班長研修会を開催 於・鴨池教会 61人参加
- 1987(昭62)・1月、糸永司教、ザビエル幼稚園廃園後に鹿児島司教区本部を司教座教会に移転すること、宣教再開百周年カテドラル建設計画の一時中止を発表
- ・4月、宮崎市で「南九州小神学院」の新校舎落成式
  - ・4月、教区本部の移転段階的に開始
  - ・8月、奄美大島地区信徒大会を名瀬聖心教会で開催、百周年開始を宣言
  - ・10月、教区本部・ザビエル教会共催の「ザビエル市民講座」始まる。
  - ・11月21～23日、「第一回福音宣教推進全国会議」(NICE 87) 京都で開催。本教区から13人出席。開催発表から3年余、各教区の意見のまとめを提出、各管区での公聴会を積み重ねながら「開かれた教会づくり」をテーマに参集した。鹿児島教区の準備作業はSBU委員会を中心に行う。会議終了後、出席者が手分けして教区全域の教会で報告会を催す。12月、日本カトリック司教団はこの会議の答申に対して公式文書「ともに喜びをもって生きよう」で答える。
  - ・12月、「鹿児島きぼうの電話」開局
- 1988(昭63)・2月、宣教師シドッチ神父来島280年、屋久島教会献堂
- ・3月、小隈憲士師司祭叙階 於・鴨池教会
  - ・5月、教区本部に教区図書室オープン
  - ・5月、ショファイユの幼きイエズス修道会、特別養護老人ホーム「めぐみの園」を西仲勝に開園

- ・ 11 月、奄美大島地区百周年記念事業実行委員会設置
- 1989 (昭 64)・ 2 月、第一回北薩地区宣教百周年準備委員会開催 於・川内教会
- ・ 田辺徹師、教区報 9 月号より「この百年」を記載 (1993 年 3 月号迄 40 回に及ぶ)
- ・ 5 月、「日本カトリック婦人団体連盟」第十五回総会を鹿児島市で開催
- ・ 5 月、教区家庭委員会主催「カトリック結婚セミナー」(全 6 回)開催。結婚当事者だけでなく多くの人にカトリックの結婚観を伝えるための講座
- ・ 7 月、本土地区司牧評議員研修会。SBU 事務局が拡大班長研修会として開く。
- ・ 9 月 8 日、七田和三郎陥穽帰天
- ・ 9 月、教区本部・ザビエル教会共催「教会憲章学習会」開催
- ・ 10 月、教区本部主催で本土地区小教区財務委員研修会を開催
- ・ 11 月、第一回教区百周年委員会開催 於・かごしま第一ホテル  
テーマは「今後の百年に向けての教区のビジョンを探る」 小教区、地区、各層の代表者 82 人が参加
- 1990 (平 2)・ 2 月、糸永司教アド・リミナで教皇訪問
- ・ 7 月、本土地区司牧評議員が会し宣教再開百周年記念について意見交換
- ・ 11 月、「司祭の墓」、唐湊カトリック墓地に完成
- 1991 (平 3)・ 1 月、鹿児島カトリック教会・施設を紹介する冊子「神は愛なり」を発行。教区民に配布
- ・ 3 月、翌年の奄美宣教百年祭に向けての一環として「奄美信徒大会」開催 於・振興会館 1,500 人集う。小教区毎に歌や寸劇、小教区ビジョン、宣教百周年記念歌を披露
- ・ 4 月 21 日、北薩地区「宣教再開百年祭」開催 於・川内教会 500 人集う。第一部「記念ミサ」生活に密着した品々の奉納、信徒・修道者・司祭代表の体験発表 第二部「集い」川内純心

演劇部による殉教劇「レオ七右衛門」、大口明光学園のコーラス、阿久根聖園老人ホームの器楽合奏

- ・6月30日（聖霊降臨の主日）鹿児島教区全体の記念行事として「宣教百周年記念教区ミサ」～感謝と賛美 新たな出発～を鹿児島純心女子学園で開催 1,800人が集う。石神那覇司教、司祭48人の出席、里脇枢機卿、駐日バチカン大使からメッセージも届く。2時間30分を予定したミサ中、北薩・鹿児島・奄美・徳之島・大隅5地区の宣教の歴史の紹介、全小教区・修道会による共同祈願及びビジョンの奉納、両形色の拝領、最後にそれぞれが奉納したビジョンを受け取る派遣式などがあり、スローガンに相応しい内容のミサとなる。
  - ・8月5～7日、百周年記念「教区子供大会」を鹿児島純心女子学園で開催 250人参加
  - ・11月4日、教区ビジョン「福音を生き、広めて行く共同体になろう」を宣教百周年委員会第三回総会で承認。その内容として  
.信仰の養成 信仰生活の見直し 社会的養成 リーダーの養成  
.家庭と福音宣教 福音に基づく家庭づくり  
結婚の準備 青少年の育成 高齢者への配慮  
.キリシタン史跡の顕彰と巡礼、ザビエル450年祭の準備  
.教区組織の刷新 教区養成機関の設立 教区評議会の設立  
地区財務委員会の改組 .百周年記念事業 「祈りの家」建設 カテドラル建設の検討、の五つの柱からなる。
  - ・11月6日、奄美で百周年記念「エリザベト音楽大学特別演奏会」於・奄美振興会館 1,700人参加
  - ・11月28日、鹿児島市で百周年記念市民講演会：村松英子氏「愛はわが家から」 於・県文化センター 700人参加
- 1992（平4）・1月、教区ビジョン に従って「家庭を考えるチーム」発足。更にNICE2のテーマ「家庭」を準備するため
- ・3月22日、奄美大島宣教百周年記念式典（ミサ、式典、祝賀会）開催 於・奄美文化センター 本土からも大勢の司祭、信徒が

参加し、総勢2,500人集う。石神那覇司教(病気の糸永司教の代理)と大勢の司祭たちの共同司式によるミサの中、教区神学生泉浩二氏の助祭叙階式、ミサ後の式典でそれまで大島宣教に尽力された男女修道会の挨拶と350人の子供たちの「派遣」、最後に祝賀会を行う。

- ・5月、大島地区財務委員会設置
- ・8月、教区ビジョン に従ってネメシェギ神父の集中講座(10日間)を開催。於：ザビエル教会 未曾有の330人が受講。川内、名瀬の講座を合わせると600人が参加。以後、竹山昭神父によって現在に引き継がれる。
- ・9月、第一回伊集院ザビエル祭開催
- ・11月、「鹿児島地区信徒の集い～家庭教会づくり～」を開催 於・ザビエル教会 216人参加

1993(平5)・1月、奄美地区修女連總會 NICE2のテーマ「家庭についての教区の動向と実態」 於・名瀬信愛幼稚園 42人参加

- ・1月、鹿児島市民団体「ザビエル上陸顕彰会」発足
- ・3月、泉浩二師司祭叙階 於・名瀬聖心教会
- ・3月、NICE2 鹿児島委員会発足(16人)
- ・4月、「神学生養成費」制度開始
- ・5月、教区典礼委員会を新設。鴨池、聖心教会を典礼モデル小教区に指定。指導者は国井健宏神父
- ・第一回鹿児島地区財務委員会開催
- ・10月、「第二回福音宣教推進全国会議」がテーマ「家庭の現実から福音宣教のあり方を考える」のもとに長崎市で開催 当教区から16人参加、全体で246人参加
- ・11月、教区ビジョン に従って、第一回教区評議会開催 於・ザビエル教会 テーマ「NICE2を受けて、鹿児島教区での今後の実施方」
- ・12月、奄美で初の市民クリスマス開催、600人が集う。

1994(平6)・1月、教区ビジョン の実現を目指し、「ザビエル教会再建推

進委員会」発足

- ・4月、鹿児島純心女子大学開学
- ・11月10日、ヨハネ・パウロ二世は紀元二千年を大聖年とすること、その準備として第一段階：普遍教会における反省と行動の時（1994～96年） 第二段階：三位一体に向けられた準備（1997～99年） 第三段階：祝典への取り組み（2000年）を設けると発表
- ・12月5～6日、「ザビエル・サミット」を開催。ザビエル450年祭に向けての計画について情報や意見を交換するため、長崎、福岡、大分、広島、大阪5教区の司教、イエズス会管区長、長崎26聖人記念館長が集まる。ザビエル教会でミサ、鹿児島市のサンロイヤルホテルで食事会、記念祭への熱意を盛り上げ、記念祭についての発表、意見交換を行う。多数の信者が参加

1995（平7）・2月、糸永司教アド・リミナで教皇訪問

- ・3月、糸永真一司教祝聖25周年記念ミサが28人の司祭、500人の信者の参加を得て盛大に行われる。夜ホテルで祝賀会
- ・3月、浜崎眞実師司祭叙階 於・名瀬聖心教会
- ・4月、教区ビジョン に従って、祈りの家「マリア山荘」、溝辺小教区開設
- ・4月、2年間の試行期間を経て「鹿児島カトリック女性信徒の会」が正式認可、鹿児島カトリック婦人連合会は幕を下ろす。
- ・8月、戦後50年に当たり、鹿児島市内教会学校合同キャンプがテーマ「平和」のもとに開催され、100余人の子供たちが集まる 於・純心学園平川セミナーハウス。また一般を対象に「信教の自由」シンポジウムを鹿児島純心女子短期大学で開催、80人が参加
- ・9月、「鹿児島純心女子大学」をカトリック大学として認可
- ・司教区創立から40年：信徒総数9,016 実数8,609 受洗者数203

1996（平8）・1月、聖パウロ女子修道会の撤退によって、それまで運営してい

た「ザビエル書院」を教区が引き継ぎ、実際にはザビエル教会が運営

- ・3月、ザビエル教会再建推進委員会、「鹿児島カテドラル・ザビエル教会再建に関する基本構想」を司教に答申
  - ・5月、教区養成委員会発足
  - ・5月、臨時鹿児島教区評議会を「カテドラル建設構想案及びカテドラル建設委員会設置」を議題に開催。議論が白熱し会議時間を延長して行われたが、投票の結果3分の2の賛成票が得られず未承認、「司教一任」となった。なお、この日をもって2年間の「ザビエル再建推進委員会」は解散
  - ・6月、糸永司教は改めて書簡をもって先の臨時教区評議員に賛否を問い、大方の賛成回答を得たとして「カテドラル建設委員会」を発足させ「基本構想」については実行委員会で見直しを行い、具体的な建設案を作成することとなった。その後この委員会を実働させるため「カテドラル建設委員会執行部会」を設置
  - ・8月7日、ザビエル渡来450年祭について意見交換をするため4教区司教（鹿児島、長崎、大分、広島）大分司教館に集う。
  - ・8月、前長崎大司教里脇浅次郎枢機卿昇天（初代鹿児島司教）
  - ・8月18日、ザビエル祭のミサで糸永司教はザビエル渡来450年祭の準備開始を宣言。その内容として . 記念準備 . キリスト生誕の大聖年と共に . 自立して使命を果たす鹿児島教区の確立 . 記念事業 カテドラル建設 . 記念行事 記念ミサ、を挙げる。
  - ・9月、鹿児島教区はレデンプトール修道会との契約を更新
  - ・10月、第一回「ザビエル渡来450年祭記念行事実行委員会」開催。5部門と事務局のメンバーと役割を確認した。
- 1997（平9）・1月、第一回カテドラル建設委員会が開催され、「カテドラル新構想」を大筋で承認、建築家選定を急ぐこととなる。
- ・鹿児島教区はコンベンツアル聖フランシスコ修道会との30年

契約を検討した結果、今後 10 年契約に変更し、地区委託を少数区委託に切替え、大笠利、古田町、古仁屋の三小教区を修道会に永久委託。但し西仲勝、小湊、喜界島、西阿室の諸教会及び住用村と宇検村の地域、並びに他の事項に関しては 10 年毎に見直すこととする。

- ・ 4 月、建設委員会は 5 人の建築家から出された設計案を最終審議し「坂倉建築研究所」(代表/坂田誠造 東京に本部事務所)に設計を依頼
- ・ 5 月、建設委員会執行部会は設計及び工事日程に関して 基本設計10月初旬完了 既存本部棟の改修10月初め～11月中旬 現聖堂及び司祭館解体 1998 年 1 月中旬 新聖堂着工 1998 年 4 月中旬、と発表、新カテドラルの模型を展示
- ・ 8 月、旧ザビエル教会で最後のザビエル祭のミサが捧げられる。なお、二年後の 450 年祭迄の日数をカウントダウンするボードの除幕も行い 1728 の数字が表示される。
- ・ 9 月、第二回カテドラル建設委員会を開催。「基本設計」の理解を深めると共に、「建設資金調達及び建設費支払計画」を承認
- ・ 12 月、ザビエル渡来 450 年祭実行委員会は祭典に向けてロゴマークとスローガン「伝えよう・ザビエルの熱きところ」を決め、教区民に記念行事の浸透を図るために教区報に特集企画“ザビエル渡来 450 年祭”の欄を設け、とくに青年たちの意見と活動の連載が熱きところを伝えて行くことを目指す。

1998 (平 10)・ 1 月 12 日、旧カテドラル・ザビエル教会聖堂別れのミサ。1～3 月、旧聖堂復元の志のもと、多くの人の協力を得て慎重に取壊し作業が進められる。

- ・ 3 月、善き牧者愛徳の聖母修道会は鹿児島から撤退するにあたって「愛の聖母園」(児童養護)の運営母体を鹿児島司教区に移管
- ・ 4 月 19 日、カテドラル建設起工式
- ・ 5 月 7 日、鹿児島市より 450 年記念祭式典の主会場として「鹿

「児島アリーナ」の使用許可が下りる。

- ・7月、奄美大島地区司牧評議会発足
- ・8月、ザビエル祭のミサで、糸永司教は「ザビエルの年」(1998.8.15～1999.12.3)を宣言。この間の教区主催による主たる行事も発表
- ・8月、奄美大島地区第一回「ザビエル渡来450年祭実行委員会」発足
- ・11月、「主日のミサと福音宣教」テーマに第四回教区評議会を鴨池教会で開催。ザビエル渡来450年祭、大聖年を契機に教区の霊的刷新を図ることを目指す。
- ・12月、鹿児島教区はザベリオ宣教会との契約を一部改正して更新、今後3年契約となる。

1999(平11)・2月13日、カテドラル上棟式

- ・2～3月、鹿児島地区で「ザビエルの年特別黙想会」が小教区主催の黙想会と地区主催の「合同黙想会」の二層で行われる。また青年会主催の黙想会がマリア山荘で、大島地区教会主催の黙想会が聖心教会で行われる。
- ・5月18日、450年祭実行委員会は諸宗教との対話を図ることを意図して「五十嵐和尚(曹洞宗)講演会」を鴨池教会で開催、雨にもかかわらず150人参加
- ・5月23日、糸永司教は450年祭の教皇特使がパチカン市国行政庁長官エドモンド・ショーカ枢機卿であることを公表
- ・7月11日、第三回カテドラル建設委員会総会を開き、竣工・献堂式について検討。日時は9月15日、式典は竣工式・ミサ・歓談とし、記念にリーフレットを配布する。
- ・7月～8月、「大ザビエル展」開催。主催：黎明館・NHK鹿児島放送局・NHK九州メディア・ザビエル展実行委員会(民間)
- ・450年祭記念「子供大会」：奄美地区7月25～27日、赤尾木カトリック研修センターで開催、90人参加。鹿児島本土地区8月11～13日、鹿児島市少年自然の家で開催、60人参加

- ・8月12～15日、「ザビエル渡来450年国際青年大会」開催。上陸記念碑前で捧げられた「8・15上陸記念日ミサ」に国内外からの青年たち212人が参加、彼らの若さと熱意が会場に溢れ、希望で包んだ。糸永司教は総勢600人の会衆にザビエルの鹿児島上陸の経過、意義、靈性を説き、最後に「主よ、あなたの聖なる宣教師ザビエルに倣い、私たちをあなたの愛の宣教師としてください」と祈りで結んだ。鹿児島教区の青年たちが輝いていた。
- ・9月15日、ザビエル渡来450年祭の記念事業「鹿児島カテドラル・ザビエル記念聖堂」の献堂。ザビエル教会が準備を始めて17年、鹿児島宣教再開百周年の建設を目指しながらも適わず、漸く再建推進委員会を立ち上げ、実行委員会へと進み、様々な困難に出あいながらも教区民の総力を結集して建設した一致のシンボル、カテドラル献堂式に1,000余人が集い喜びと感謝、希望を表わした。
- ・10月8日、「ザビエル聖腕」が50年ぶりに鹿児島“訪問”。当日夕方ローマのジェズ教会から運んで来られたヨゼフ・ピタウ大司教（バチカン教育省副長官）から聖腕がザビエル上陸記念碑で待機していた糸永司教に引き渡され、碑からパレードしてカテドラルへ。出迎え式の後、新聖堂に安置。12日朝迄、正味三日間、昼夜、絶えることなく崇敬、市民を含めて一万人超もの人々が訪れる。カテドラル鐘楼に「ようこそ教皇特使ショーカ枢機卿様」「祝ザビエル渡来450年祭」「おかえりなさいザビエル神父様（聖腕）」の縦断幕が掲げられた。12日朝、聖腕は平戸へ向かう。
- ・10月10日朝、新カテドラルで教皇特使エドモンド・ショーカ枢機卿の教区歓迎ミサ。ミサは駐日バチカン大使エンブローズ・デ・パオリ大司教、ヨゼフ・ピタウ大司教、石神司教、糸永司教の共同司式、800人余の信者が参加
- ・10月11日午後2時、鹿児島アリーナを会場に「ザビエル渡来

450年祭記念ミサ」が教皇特使、21人の司教、160人の司祭、全国から参集した5,600余人の信者と共に荘厳かつ盛大に挙行され、深い感銘を与える。教区はもとより、教区外の信者、海外からの巡礼団、キリスト教諸派、仏教関係者の姿もあった。市民を含めた大合唱団、川内純心高校のハンドベル部、百人余りの教会学校の子供たちが感動的なミサの一翼を担う。夕刻、教区主催祝賀会がサンロイヤルホテルで催され、教皇特使、駐日バチカン大使、日本司教団、須賀龍郎県知事、赤崎義則市長、その他大勢の信者が祝杯をあげた。

- ・11月、ザビエル450年祭を機会に「西日本宣教司祭大会」～新しい福音宣教 第三の千年期に向けて～が福岡市で開かれ、242人の司祭が参加。二日間で岩島忠彦神父の基調講演、韓国ソウル教区長キム・スーハン枢機卿の記念講演を基に分団会、全体会で分かち合い、提言がまとめられる。
- ・12月3日、カテドラルで「ザビエルの年」閉幕式典。閉幕式では4人の代表者が「ザビエルの年」を総括、続くミサの説教では糸永司教がキリスト生誕2000年の大聖年の教区目標「人に優しい鹿児島島の創造」を宣言。その内容として「ザビエルの年」から「大聖年」へ ザビエルの宣教から新しい宣教へ 司教座教会への巡礼と小さな隣人への巡礼、の実践目標を挙げた。ミサ後、各小教区を回って集められた「ザビエル様へのメッセージ」(“希望の箱”)をタイムカプセルに納める。
- ・12月25日、カテドラルで鹿児島市内教会合同の大聖年開始ミサ。700人参加

2000(平12)・1月、ザビエル渡来450年祭実行委員会の解散式

- ・3月、司教座巡礼第一陣川内教会。年齢、体力に応じて四つの出発地点から98人が徒歩巡礼。主任司祭曰く「信仰も自分の足で歩くもの。だから徒歩巡礼を実施した」
- ・4月、司教は各地区の合同堅信式ミサへの参加を大聖年公式巡礼に指定

- ・4月、カテドラルでは観光客、参拝者に対応するための既設の「昼の案内係」に加えて「夜の案内係」(17:00~21:00)を設置
- ・5月、本土地区班長研修会開催。司教は「小教区」と「班制度」それぞれの理念と目的を説明、その後、参加小教区の現状を報告。今回の研修会は11年ぶり。120人参加
- ・6月、北薩地区信徒大会が開催され、大口明光学園で大聖年公式合同巡礼ミサ。200人参加
- ・6月、鹿児島純心女子学園中学校の父母会司教座聖堂巡礼。70人
- ・7月1日、名瀬聖心教会で奄美大島地区大聖年公式合同巡礼ミサ。受堅者63人、参加者500人。3日、第二回地区司牧評議会を名瀬聖心教会で開催。司教は本土地区の班長研修会と同じ内容の講話を行い、また、「教区とコンベンツアル会との契約」についても詳しく説明
- ・7月、大口教会司教座聖堂巡礼。30人
- ・7月、今年の教区目標の実現に向けて「愛の聖母園を支える会」が発足
- ・10月、鴨池教会司教座聖堂巡礼40余人、出水教会司教座聖堂巡礼23人
- ・11月、第五回鹿児島教区評議会が二つのテーマ「大聖年教区目標を総括しながら、新しい宣教のあり方を分かち合う」、「カテドラル第二期工事(教区本部棟)建設に関して」のもとに開催。後者のテーマに関して司教は建設の提案理由として4項目を挙げて説明、計画案とともに「カテドラル第二期工事建設委員会」設置が了承され、その準備に入る。
- ・11月、鹿屋教会で大隅地区大聖年合同巡礼ミサ。ミサ前に「小教区と班活動」について司教の講話を聴く。参加者80人
- ・11月20日、三木巖師帰天

2001(平13)・1月7日、カテドラルで玉里、吉野教会の信徒も参加し「大聖

年閉幕ミサ」を捧げ、大聖年の恵みを感謝し、新たな決意で宣教に向かって踏み出す。主任司祭は各小教区でのミサで大聖年の終わりを告げる。

- ・1月、大聖年の間、教区本部担当で教区民の霊的サービスのために行われてきた毎水曜日夕方の「ゆるしの秘跡とミサ」は今後も継続
  - ・2月、カテドラルで田辺徹師の司祭叙階50周年(1951.3~2001.3)の感謝ミサ
    - ・2月27日、東條一浩師昇天
    - ・4月15日、復活の主日にカテドラルのパイプオルガンの祝別。鹿児島教区初の“パイプオルガンミサ”
    - ・5月、「シドッチ神父記念碑」が屋久島教会に建立、除幕式
    - ・5月、第一回「鹿児島地区司牧評議会」を「青少年の信仰教育」をテーマにカテドラルで開催
    - ・6月、カテドラル第二期工事(教区本部棟)のための「特別献金」依頼を信者宅に送付。今回は小教区毎の献金でなく、個人の自由献金方式
    - ・6月、奄美大島大熊教会献堂式(戦後二代目の聖堂)
    - ・9月、宮崎の南九州小神学院の閉校に伴い、2002年度4月からの教区の小神学校志願者受け入れに関して、長崎大司教の承諾を得て、今後、長崎カトリック神学院に送ることに決定
    - ・11月、徳之島宣教百年記念式典。徳之島宣教は1901年パリ外国宣教会のフェリエ神父が始め、1903年から1949年の空白期間の後、カプチン会、コンベンツアル聖フランシスコ修道会、レデンプトール修道会の活動を経て現在に至る。
    - ・12月、奄美大島古田町(マリア)教会献堂
- 2002(平14)・1月、教区目標を「小教区と私たち~その理解と刷新~」とする。具体的に小教区態勢を固めて宣教の実りを実現しようというもの。司教は目標の解説を教区報2月号から連載
- ・1月14日、永島泰蔵師昇天

- ・2月、第二期工事建設委員会開催。建設費に対して、1億2千万の不足を確認したが、目処がつき次第着工すること、募金を継続することなどを了承
- ・7月、建設委員会。募金活動促進のため、本部棟の緊急必要性を訴える平易な説明をすることを確認
- ・9月、糸永司教の司祭叙階50周年（1952.9.14～2002.9.14）の感謝ミサをカテドラル献堂記念日に合わせて行う。奄美大島では9月22日、名瀬聖心教会で
- ・10月、本土地区カテキスタ研修会を川添猛神父（元長崎浦上教会主任司祭、現在天草地区担当）を講師に開催、大きな反響を呼ぶ。90人参加
- ・11月、第六回教区評議会開催、教区目標について分かち合う。
- ・11月、建設委員会を開き、某修道会からの好意により1億円の借入が可能であり、着工の目処がついたことで、来年4月着工を委員会として決定。ただこの件は宗教法人責任役員会の管轄事項なので、正式には12月の役員会で決定される。

- 2003（平15）
- ・1月、教区目標を「聖性への信徒の召命～洗礼のいのちを豊かに生きるために～」とする。小教区の目的は一人ひとりの信徒を聖性に導くことにあることから、昨年の教区目標を更に進めたもの。このため糸永司教は「信徒のための信仰生活の指針」を著し鹿児島教区で発行、中学生以上の全信徒に配布
  - ・1月、建設委員会を開き、設計関係と資金の最終調整を行い、新たに電気代節約のため太陽光発電システムの導入を決定（後に断念）。なお、実施設計終了（2月）、現場説明と施工業者との契約（3月中）、現本部棟の解体と新本部棟の着工（4月）、工期期間（7カ月）の予定が示される。
  - ・1月、カテドラルで田原章師司祭叙階50周年（1953.3.17～2003.3.17）感謝のミサ
  - ・3月、建設委員会。3月に某修道会との借入契約完了、特命の施工業者・竹中工務店と契約（同社が聖堂棟を担当）、仮本部

事務所の移転などが報告される。

- ・3月21日、カテドラルで教区所属の末吉卓也師とレデンプトール会所属の石田望師が司祭叙階。教区司祭の叙階式は8年ぶり
- ・4月、日本司教団監修 新要理書編纂特別委員会（委員長系永司教）編「カトリック教会の教え」発行
- ・「ザビエル聖堂を文化財として再生させる会」が旧ザビエル聖堂の保存部材を福岡県宗像市の黙想の家に移転完了
- ・4月、カテドラル第二期工事起工式
- ・5月、系永司教が全司祭集会で「ロザリオの年」のための教区指針について説明
- ・6月、本土地区班長研修会は司祭評議会の要望に応じて永山幸弘師作成の「班制度のしおり」をテキストに班の理念と実践を学ぶ。100人程参加
- ・7月、大島地区班長研修会開催。系永司教の小教区の理念と使命、要理教育の必要性についての講話を聴いて研修。参加者は80人程
- ・9月、本土地区司祭集会で竹山昭師が終身助祭制度について発題、司祭団の中で討議が始まる。その中で司祭団だけでなく、教区民の理解が必要との大方の意見があり、近く資料を小教区に発送。同じく奄美地区司祭集会においてもこの件についての討議が始まる。
- ・10月、本年の司祭大会の要望を受けて設置されたカリキュラム委員会主催でカテキスタ研修会を開催。同委員会が作成した「小学生のカリキュラム」(案)についてグループで分かち合う。
- ・11月、川内殉教祭に溝部脩仙台司教が招かれ、日本における殉教者の列福を実現するためには国内の殉教者に対する崇敬の広がりが必要であること、また列福を後押しする運動と広報が不可欠であること、などを訴える。
- ・11月24日、カテドラル第二期工事教区本部棟の落成祝別。司

教座聖堂と教区本部は一体であるとの教区本来の理念に基づき、4年前の司教座聖堂の建設、そしてここに本部棟の落成で名実ともに教区宣教司牧の基地が完成。聖堂と本部棟、ザビエル書院合わせて総工費10億円、教区民の教会への愛と信仰は永久に記憶されることになろう。同時に、ザビエル幼稚園のモニュメントの除幕式が卒園生の代表によって行われる。

- ・12月、教区初めての教区主催「召命祈願ミサ」。神学院の司祭を招いて現場の話を聞こうという司教発案で実現。司教とともに司式した山内実神父（長崎カトリック神学院院長）は自分の召命を紹介しながら、本人が神からの呼びかけに応えること、周りの人も祈りで支えていくようにと信者を励ます。茶話会では、長崎カトリック神学院及び司祭になる迄の道について紹介。出席者100人

2004（平16）・1月、今年の教区目標は「教会の教えを学び直そう～ともに信仰を生きて広めるために～」。昨年4月に発行された新要理書「カトリック教会の教え」の学習に焦点

- ・2月、教区終身助祭養成委員会設置
- ・3月、「鹿児島カトリック教区報」は今月号で450号（42年）教区の宣教司牧において教区報の果たす役割は大
- ・3月、レデンプトール修道会ミュンヘン管区来日50周年。同会は管区本部のある谷山教会で式典。1952年9月、同会の最初の宣教師マイエル神父、ミタマヤ神父、ヤロシュ神父が来鹿
- ・3月、奄美大島大笠利小教区は創立百周年記念式典。当地の宣教は1903年、中村長八神父（長崎教区司祭・現在列福手続き中）によって開始。
- ・4月、教区カリキュラム委員会は教会学校小学生用のカリキュラムを発表。今年度から使用
- ・6月、糸永司教は11月2～3日の日程で第七回教区評議会を召集。テーマは「交流・養成・秘跡～宣教する小教区になるために～」

- ・6月、教区カリキュラム委員会は秋のカテキスタ研修会に向けて中学生用カリキュラムの作成作業に入る。
- ・8月、鹿児島カトリック連合壮年会は鹿児島ユネスコ支部共催で「平和」をテーマにパネルディスカッション形式の「平和の集い」を開催。パネラーは田中弘允会長と糸永真一司教
- ・8月、ザビエル祭が教区行事となってから30回目。それまでザビエル教会単独で行う。司教は説教の中で「鹿児島教区民は全国の教会を代表するつもりでザビエルの記念を行っている」と述べる。祭りは今回から聖ザビエルの崇敬、聖母被昇天ミサ、平和への決意と派遣、の三部構成で祝う。
- ・9月「十字架の使徒会」発足から25周年。15日(十字架称賛の日)に司教座聖堂でミサ
- ・10月1日付、奄美大島小宿小教区設立。首座教会は小宿聖堂、管轄地域は従来の知名瀬小教区を引き継ぐ。主任司祭の住居も小宿教会に移る。
- ・10月、「聖体の年」(04.10.10~05.10.29)が始まる。糸永司教は司祭たちに「聖体の年実施要領」を参考に提供
- ・10月、カテキスタ研修会開催。教区カリキュラム委員会はテーマを「中高生の信仰教育・どんな中高生に育てたいか」とし、講師をレデスマ神父(鴨池教会協力司祭・イエズス会)に依頼、中学生用カリキュラム作成の一助とした。
- ・11月、第七回教区評議会開催。通常のメンバーに各層の代表者を加えた拡大評議会となる。6月の司教の召集を受けて各小教区で分かち合いを重ねて作ったテーマについての提案を文書にまとめて会に臨む。2日の夜は司教の趣旨説明と夕食をとりながらの「交わり」、二日目は分団会で「分かち合い」を行う。小教区の提案は冊子にされ、後日、評議員に発送
- ・11月、司祭評議会総会「司教区50周年記念委員会」を設置。構成委員を司祭、信徒、修道者とし、司祭委員3人を決める。
- ・11月、教区主催「教区典礼研修会」開催。講師は白浜満神父(福

岡サン・スルピウス大神学院教授) ミサの構造、ことば、動作の具体的な説明で、参加者に感銘を与える。

- ・12月、昨年に続いてカテドラルで教区主催「召命祈願ミサ」。司教とともに司式した郡山健次郎師は自分の司祭召命を紹介しながら、司祭職の素晴らしさと大切さを伝え、信者たちを励ます。80人参加
- ・司教区創立から49年：信徒総数9,289 実数9,031 受洗者数133

2005(平17)・1月、奄美大島修女連が「世界平和と召命祈願」掲げ、2003年1月から3回目で島内すべての32教会巡礼終了

- ・2月、司教は司教区50周年記念委員会と教区本部との合同会議を開き、記念の内容を決め、教区司祭に通達。内容は 記念行事(50周年開始ミサ、聖体一日礼拝の小教区リレー、司祭召命祈願月間の実施、50周年記念ミサと式典) 記念事業(解説付き教区年表の編集・発行、教区報の縮刷版の発行) 記念運動(小教区活性化運動の開始、終身助祭制の開始、特別提案『世界青年の日ケルン大会』への青年の派遣) など
- ・2月27日、カテドラルで司教区昇格50周年開始ミサ。教区はこの節目に「小教区が活性化し、教区が一つになるように」という主題を掲げる中、桃菌淳一郎氏(鴨池教会)と久保俊弘氏(谷山教会)を終身助祭候補者に認定、教区内全小教区を巡る聖体永久礼拝リレーもスタート。教区報はリレーに合わせて各小教区を紹介
- ・4月2日、教皇ヨハネ・パウロ2世帰天。教皇在位26年
- ・4月、定例司祭評議会「信徒奉仕職」を正式に教区に導入するための検討を始める。
- ・4月、教区典礼委員会再発足
- ・4月18日、コンクラーベ(教皇選挙)はヨゼフ・ラッツィンガー枢機卿を第265代教皇に選出。新教皇名はベネディクト16世

- ・4月、今年度最初の司祭召命祈願月間
- ・5月、「聖体」をテーマにカトリック北薩大会を純心女子大学で開催。約150人参加
- ・6月、「聖体の年」に因んで「ミサ参加を増やすための班の役割」をテーマに本土地区班長研修会を開催。事前のアンケート調査を踏まえて、分団会で分かち合う。約80人参加
- ・6月、定例全司祭集会 5月の同集会に引き続き「信徒奉仕職（信徒リーダー）」について審議、特に今回は具体的な養成プログラムの一環として、福岡サン・スルピス大神学院「神学養成講座」への参加者募集が議題
- ・6月、教会学校リーダー養成講座。学期毎に2回程度の開催が目標。今回が初回
- ・7月、「信徒の使命と召命～これからの教会をつくるために～」をテーマに奄美大島地区信徒研修会を開催。130人参加
- ・7月、教区信仰養成委員会。信徒奉仕者養成の具体的な実施、神学養成講座参加者の把握と手続きについて話し合う。
- ・8月、鹿児島カトリック連合壮年会と鹿児島ユネスコ協会共催「平和の集い」を昨年に引き続きカテドラルで開催。パネラーは田中弘允氏と永山幸弘神父（ザビエル教会主任）。約60人参加
- ・8月7日、小平卓保師帰天
- ・8月、ザビエル祭。ミサ後、鹿児島ユネスコ支部の宗派を超えた「平和の鐘を鳴らそう運動」に協力。記念碑に設置された鐘を糸永司教と会長が鳴らす。参加者350人
- ・糸永司教、メッセージ発表「終身助祭及び信徒奉仕者の養成～司教区の新しい船出のために～」(鹿児島カトリック教区報9月1日号)
- ・9月19日、鹿児島教区50周年記念祭(テーマ「キリストこそわれらの希望」)午前10時 於：カテドラル。式中、ヴェトナムからの教区神学生ワン・クォク・テイエン氏助祭・司祭候

補者認定式、教区初の終身助祭叙階式（桃園、久保助祭）、教区功労者の表彰

#### 参考文献

- ・奄美宣教 100 周年実行委員会発行「カトリック奄美 100 年」  
(1992)
- ・カトリック鹿児島司教区広報部「鹿児島カトリック教区報」
- ・カトリック中央協議会「カトペディア 2004」
- ・コンベンツアル聖フランシスコ会・奄美大島管区本部編「奄美大島宣教 25 年史」
- ・レデンプトル会ミュンヘン管区「来日 25 周年記念誌（自 1953 年 9 月 至 1978 年 9 月）